

救急安心ガイド(表面)

⚠ ためらわずに「119番」すべき症状

頭(あたま)

- ✓ 突然、激しい頭痛がおきたとき
- ✓ 手足に急に力が入らなくなったとき
- ✓ 言葉がうまく出ない・ろれつが回らない

胸・背中・お腹

- ✓ 突然、激しい胸の痛みや圧迫感がある
- ✓ 突然、激しい腹痛がおそってきたとき

全身・その他

- ✓ 意識がない・呼びかけても反応がおかしい
- ✓ 息が苦しい、ゼーゼーして呼吸困難

大人の救急相談(おとな)

 **#7119**

24時間365日、医師や看護師などの専門家が、救急車を呼ぶべきか・すぐに病院に行くべきか親身にアドバイスをします。

子どもの救急相談(15歳未満)

 **#8000**

夜間や休日の子どもの急な発熱・嘔吐・ケガなど、小児科医師や看護師が受診の必要性を判断します。

【注意】「様子がおかしい」と直感したときは、
ためらわずに119番を呼んでください！

i 救急安心ガイド(裏面)

👉 救急車を呼ぶ前に知ってほしいこと

救急車の台数は限られています。本当に必要としている他の誰かの命を救うため、適切な利用にご協力をお願いいたします。

× 不適正な利用例

💡 望ましい対応方法

「病院での待ち時間を短くしたいから」

救急搬送されても、重症度順の診察のため待ち時間は早くなりません。

「軽いかゆみや、かすり傷があるから」

自家用車やタクシーで診察時間内に最寄りの医療機関へ向かいましょう。

「通院日だけど、移動手段がないから」

介護タクシーなどを事前予約して活用しましょう。

※歩ける・動ける状態であれば、一般の交通機関(タクシー含む)をご利用ください。

≡ 119番通報で落ち着いて伝えること

いざという時は誰でも慌ててしまうものです。深呼吸をして、指令員の質問にひとつずつ答えてください。

- ① 「救急です」と伝える「火事ですか？救急ですか？」と聞かれるので、迷わず「救急です」と答えます。
- ② 住所(場所)を正しく伝える 市町村名から、〇丁目、〇番、〇号まで丁寧に。目印になる建物も有効です。
- ③ 「誰が」「どうなったか」を伝える「〇〇歳の祖父が、意識を失い倒れました」など、現在の状態を伝えます。
- ④ あなたのお名前・電話番号を伝える
通話後に救急隊から折り返し電話をかける場合があるため、正確に伝えます。

安心

「119番の電話の向こうには、必ずプロがいます。ゆっくり深呼吸をしましょう。」